

大学時代の友情は今も健在 いつか仕事でも連携したい

旧友と笑い合ったひとときが、仕事の刺激になったり、
大学で学んだ法律のことを、実務を通じて見つめ直したり。
あの頃と今がゆるやかにつながる瞬間が、確かにあります。

出身は愛媛県です。公務員とか裁判所とか、公的で広く誰かの役に立つ仕事に興味があったので、進学の際に四国唯一の国立法学部がある香川大学を選びました。車がないと生活が不便な内子町の山で育った私の目に、「自転車でもどこへも行ける」という高松の暮らしは新鮮でした。かといって関西圏ほど人が多過ぎず、言わば「程よい都会感」が高松の魅力かな。

大学時代の専門は行政法。産業廃棄物不法投棄が問題となった豊島事件をテーマに島の人に話を聞きに行ったり、徳島県上勝町のお年寄りを中心とする葉っぱビジネスについて農協に聞き取りをしたりと、フィールドワークに奔走しました。大学の外で色々な話を聞き、地域と深くつながった経験は、地域が抱える問題について考えるきっかけにもなったと思います。

法学部の授業の一つに、民間企業の社員や公務員が講師として教壇に立つコースがありました。ある日、講師を務めた高松市役所の職員から「コンパクトエコシティ」構想を聞いたことが、その後の道を決定付けることに。公共交通機関で生活空間をつなげていく社会は生活しやすそうだし、自分が住む街を自分の手で良くしていきたい、もっと携わりたい、まちづくりってかっこいい

いーというあの時の思いが今の原点です。県庁職員も考えましたが、県域全体が対象エリアなのは少し広すぎるなと思って、高松市役所へ。現在4年目、こども家庭課でひとり親を対象とする児童扶養手当を担当しています。実務を通じて、大学で学んだ法律や条例などに基づく仕事をしているのだと実感する瞬間は感慨深いですね。法律を基礎から学べたことは、公務員としても糧になったと感じています。

悩みを抱えている人たちの窓口対応をしていると、福祉の仕事というのは時にハードだなと思うこともあります。でも、上司に相談しながら、市民の皆様が納得していただけ対応ができた時の達成感は大変大きい。1年目は何もわからず、2年目はやっと全体像が見えてきて、3年目には担当業務の中でキャリアが一番長くなり、頼りにされているという責任感が芽生えたように思います。

公務員には異動がつきものなので、人事異動でメンバーが入れ替わるたびに刺激を受けて、自身の考え方も変わってきた4年間でした。実践を通じて失敗しながら少しずつ成長していくのは、社会人として大事なステップですね。そろそろ異動の時期ですし、いろんな業務を経験して、いつかはま

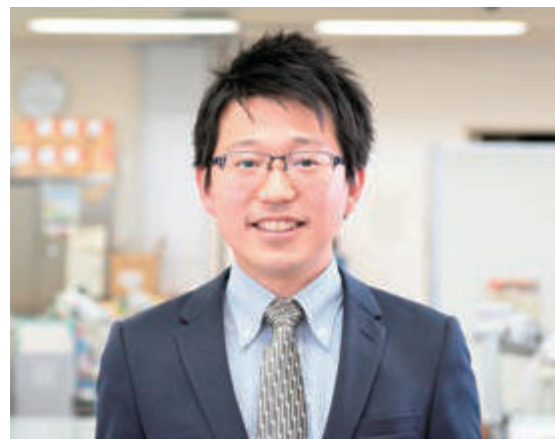


地域と、人と、つながる仕事 まちづくりってかっこいい!

自分が住むまちだから、もっとよくしたい。
そんな熱い思いが、有吉さんの原動力です。



高松市健康福祉局こども家庭課 有吉昂佑さん(法学部出身2016年卒業)



ちづくりに深く携われるチャンスが来たらしい。

大学の時は文武両道を目指して、勉強も部活も頑張っていました。当時の仲間たちは今もつながっています。ゼミのメンバーとは年1回、先生も交えた日帰り旅行などを楽しんで…。ほとんどが公務員の道を選んでいて、たまに行く会合は互いに刺激し合い相談できる場です。近隣県に勤めている人が多いので、仕事で連携できれば面白い展開が生まれるかもしれません。

そうそう、妻は法学部の同期で、つい10日ほど前に長女が生まれたんですよ。出産に立ち会えて感動しました。人事課主催のパパ研修にも参加しましたし、忙しい部署の男性でも積極的に長期の育休をとる風土があるので、私も1カ月くらい育休をもらって一緒に子育てを頑張るつもりです。